

2 古典②

練成問題

1 次の古文とその現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

孫子^{そんしけい}荊、年少^{わか}き時、¹隠れんと欲す。王^{おうぶし}武士に語るに、²当に「石に枕し、流れに漱^{すす}がんとす。」とすべきに、誤^{まち}つて曰^いはく、「石に漱^{すす}ぎ、流れに枕せん。」と。王曰はく、「流れは枕すべく、石は漱^{すす}ぐべきか。」と。孫曰はく、「流れに枕する³ ゆゑんは、其^その耳を⁴ 洗はんと欲すればなり。石に漱^{すす}ぐゆゑんは、其の齒^{みか}を研かんと欲すればなり。」と。

〔世説新語〕より

〔現代語訳〕

孫子荊は、年の若い時、俗世間^{ぞくせけん}を離れようという希望を持っていた。王武士に語るのに、当然「石を枕とし、川の流^{なが}れで口をすすぐつもりだ。」と言^いうべきところを、「石で口をすすぎ、流れを枕としよう。」と言^いい間違えてしまった。王が「流れは枕とすることができず、石は口をすすぐことのできるものではない。」と言^いった。孫は「流れに枕する理由は、自分の耳を洗おう⁵ と思うからだ。石で口をすすぐ理由は、齒^{みか}をみがこうと思うからだ。」と言^いった。

3 □(1) — 線①「隠れん」の意味として最も適切なことばを現代語訳の中から書きぬいて答えなさい。

4 □(2) — 線②「石に枕し、流れに漱^{すす}がんとす」とは、どのように暮らすことを表していることばですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自然の中に住んで、自由気ままに暮らすこと。

イ 目的を果たすために苦^{くる}しさに耐^たえて暮らすこと。

ウ 貧^{ひん}しさの中で、切り詰^つめながら暮らすこと。

エ 何^{なに}が起きても平気であるように用心深く暮らすこと。

3 □(3) — 線③「ゆゑん」、④「洗はん」を、それぞれ現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書いて答えなさい。

4 □(4) 本文中で述べられている内容に合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 孫子荊は、王武士の言い誤りを正そうとした。

イ 孫子荊は、王武士の言い誤りに気付かなかった。

ウ 王武士は、孫子荊の言い誤りを正そうとした。

エ 王武士は、孫子荊の言い誤りに気付かなかった。

5 □(5) 本文の話から生まれた故事成語である「石に漱^{すす}ぎ流れに枕す」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 負けおしみが強く、言い逃れをすること。

イ 他人からの忠告を素直に聞き入れること。

ウ 自分自身を厳しい立場に置き、きたえること。

エ 自然の恵みを受けて、ゆうゆうと暮らすこと。

2 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

今朝 * とくから北谷へ ^① * 大児のよばれて * おはしたるが、春の日の長きも、遊ぶ時には短く * おぼゆるは、 ^② * 常のならひ、 * 夢ばかりに事さり、夕陽西に ^ひ * 入相の鳴るころ、わが住む ^坊 * 坊に帰り、起きてみつ寝てみつ、苦しさに * いたはられけるを、 * 小児見かね、そなたの煩ひは、心地いかがあると問はれし。ただ ^③ * けふのもてなしの餅を食ひ過して、胸の焼くるが苦しいといはれしを、 ^④ * われもちと、その ^{類火} * 類火にあうて見たいよと。

〔醒睡笑〕より

(注) とく＝早く。

大児＝寺に仕える少年で、やや年長のほう。

おはしたる＝いらつしやつた。

おぼゆるは＝思えるのは。

夢ばかりに事さり＝夢のように(あつというまに) 時が過ぎ。

入相＝夕暮れに鳴らす寺の鐘。

坊＝すまい。

いたはられける＝わずらっておられた。

小児＝寺に仕える少年で、やや年下のほう。

類火＝類焼。よその家の火事が燃え移って火事になること。

4 (1) — 線①「大児」とありますが、この大児の会話部分を一つ、本文中から書きぬいて答えなさい。

(2) — 線②「常のならひ」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

3 ①「常のならひ」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答え

なさい。

ア いつも教えられていること。

イ よくあること。

ウ だれもが知りたいこと。

エ つい忘れがちなこと。

5 ② ということが「常のならひ」なのですか。現代語で書いて答えなさい。

3 (3) — 線③「けふ」を漢字二字のことばに直して書きなさい。

(4) — 線④「われもちと、その類火にあうて見たいよ」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

4 ① この言葉以外の小児の会話部分を一つ、本文中から書きぬいて答えなさい。

5 ② この言葉からわかる小児の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 仲良しの大児と苦しみを分かち会いたいと思う気持ち。

イ もちをたくさん食べた大児をうらやましがる気持ち。

ウ 住まいが火事になり、見舞いの品をもらいたいと願う気持ち。

エ 食べ過ぎで苦しむ大児をからかい、おもしろがる気持ち。